



致道館高等学校 同窓会報

タイトル作成協力：書道部/隷書体・美術部

第1号

発行 致道館高等学校同窓会
〒997-0037 山形県鶴岡市若葉町26-31
山形県立致道館高等学校内
電話(0235)22-0061(代)
印刷 鶴岡印刷株式会社
2024年
令和6年11月26日発行



写真：報道部

同窓会報のテーマは『繋ぐ』 将来同窓会員となる在校生が表紙を企画しました。

令和7年度総会・親睦会のご案内

※申込締め切り

令和7年6月20日(金)

日時 》 令和7年7月5日(土)

総会 15:00 / 親睦会 16:00

毎年7月
第一土曜日開催

場所 》 グランド エル・サン

〒997-0801 山形県鶴岡市東原町17-7 ☎0235-24-4633

会費 》 6,000円 (当日会場で申し受けます。)

〈実行委員〉 S61卒業生、H8卒業生

参加申し込み受付中 》

お電話、ホームページまたは
公式LINEからお申し込みください。

☎0235-22-0061 (事務室 本間まで)



◀同窓会
ホームページ



公式LINE ▶

※お早めにお申し込みいただいた方へは、4月頃に確認の
ご案内を申し上げます。



同窓会長挨拶

会長 齋藤 正志 (南S44)

七月六日開催の第一回致道館高等学校同窓会においてご承認いただきました同窓会長の齋藤です。

七月二十五日に発生した記録的な大雨は山形県・秋田県の両県に甚大な被害をもたらしました。被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興が進められますことを願うものであります。

一三五年の歴史と伝統を誇る鶴岡南高校と一三六の歴史と伝統を誇る鶴岡北高校は、統合により、今年度、高一貫校致道館中学校・高等学校に生まれ変わりました。そして、四月十日に中学校・高等学校合同の入学式が挙行され、いよいよ新校がスタートいたしました。同窓会においては、南高校の鶴翔同窓会と北高校の如松同窓会は各々解散し、四月から致道館高等学校同窓会として新規活動を開始しました。

両校の統合計画が具体化するに伴い、これまで両同窓会では統合に向けた課題の検討を重ね、四月の第一回役員会、五月の理事会を経て、第一回総会において新同窓会の会則の制定、運営方針、事業計画・予算等について審議、ご承認をいただきました。新同窓会の運営については、鶴翔・如松の両同窓会の会員及び事業を全て引き継ぐ

とし、主要事業は総会・親睦会の開催、同窓会報の発行となります。

新校の基本理念は、自主自立、新しい価値の創造、社会的使命の遂行にあり、まさに藩校致道館から鶴岡南高校、鶴岡北高校へ受け継がれてきた伝統があります。その理念に従い学校運営は順調に進められていると思います。

同窓会の方も結束して新校を応援して行かねばなりません。同窓会の皆様からのご理解とご協力をお願い申し上げます。

私は、旧鶴翔同窓会から新同窓会へのつなぎ役として、会長を引き受けさせていただきますが、新体制が確立できましたら、早目に次世代会長にバトンタッチして参りたいと思っております。

最後になりますが、致道館高等学校同窓会の発展と会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り致しまして、会長挨拶とさせていただきます。



校長挨拶

校長 遠田 達浩

致道館高等学校同窓会報第一号発行にあたり、学校を代表いたしました一言ご挨拶申し上げます。

四月十日、開校式と入学式を桜が咲き誇る中、同窓会長様をはじめ役員の方々からもご臨席いただき無事実施することができました。校舎改修工事の大部分は昨年度中に終わっており、今年度は高校では体育館などの外壁塗装、中学校ではエアコン設置などの工事を行う予定があります。いろいろな点でご不便やご迷惑をかけることにもなりますが、皆様からのご理解とご協力をいただきたいと思っております。

本校の近況として、今春の鶴南・鶴北の卒業生を合わせて国公立大学には一六七名が合格し、難関大学の合格状況は、東大、一橋大で各一名、東北大三名、北海道大四名、東京外大一名をはじめ、医学部医学科四名となりました。私立大の合格者数は延べ四二二名で、早稲田大一名、慶応大二名、明治大六名、同志社大一名、立命館大三名など、鶴南・鶴北の最後の卒業生として素晴らしい結果を残しました。

部活動では、アーチェリー、陸上、水泳、ウエイトリフティングでインターハイ出場を果たしました。

文化部では、吹奏楽研究会と音楽部

が記念すべき第一回定期演奏会を、荘銀タクトを会場とし、満席の観衆のもと成功裏に終えることができました。多くの部が昨年度までと同様、それ以上に活躍しており今後も大いに期待しているところです。

また、六月には中高の全校生徒が参加して、致道館・鶴岡工業定期戦があり、新たな伝統の幕開けとなりました。

知識も技術も日々進展を続けるグローバル社会の中で、一人ひとりの生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるよう、学校としての役割を担っていくこととなります。そして、これからの時代を主体的に生きる力を身に付けた生徒育成に向けて、皆様方の期待にこたえることができるよう、致道館の新しい未来に向けて一歩ずつ進んでまいります。

教職員一同頑張っておりますので、致道館高等学校同窓会の皆様の益々のご支援を兼ねてお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝と同窓会の益々のご発展を祈念申し上げ、挨拶といたします。

学びをもつて道を致す

致道館中・高 開校

令和六年四月、山形県立致道館中学校・高等学校（併設型中高一貫教育校）が開校いたしました。旧鶴岡南高校と旧鶴岡北高校との統合を母体とした致道館高校は、おかげさまで、県内公立高校では県内一の生徒数（八六八名）が集まるマンモス校となりました。

校章は、公募された参考デザインをもとに、菅野薫氏（山辺町在住）が制作しました。「心」の文字をシンボライズしたデザインで、五色の色は、生徒の個性や進路等の多様性を表現しています。生徒数にも象徴されるように、本校は、個性に富んだ多くの生徒集団となっております。



また、本校の基本理念は、
○自主自立 ○新しい価値の創造
○社会的使命の遂行

となっております。これらは、藩校致道館から旧鶴南、旧鶴北と受け継がれてきた伝統です。そこでそれぞれを、季節に重ねながら詞にしたのが、校歌となっております。

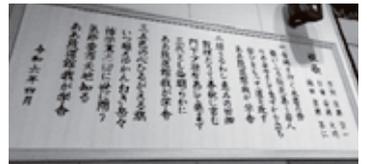
校歌は、佐藤賢二氏（鶴岡市在住）の作詞、安藤大地氏（東京都在住）の作曲、佐藤昌仁氏（埼玉県在住）の編曲で制作されました。混声四部合唱版譜面は、編曲者より寄贈いただきました。

た。六月には、高校音楽部と中学校合唱部の合同定期演奏会が開催され、中・高それぞれによる演奏もありました。

が、中高部員総勢五十八名の混声四部合唱による校歌が初めて演奏されました。古くを思い起させつつ新しい風を吹き込むような旋律、旧鶴南旧鶴北両校校歌へのオマージュによる後奏が見事に表現されていきました。

ここで、本校の基本理念の実現へ向けた、開校初年度の新たな取り組みをご紹介します。

SSH第三期二年目の改革 旧鶴南での取り組みが致道館高校でも引き継がれています。県教育委員会が推進している探究型学習に先駆けた取り組みであり、今年度は、二・三・三次における異年次交流や二年次から三年次での継続研究ができるように整備しています。また、今年度一年次より理数科が二学級になったことにあわせ、理数探究基礎講座を開講し、理数科の特色を強く打ち出すとともに、探究活動の質的向上も狙うこととしています。なお研究テーマは、地域課題に関連したもの、周辺地域の教育機関と連携したもの、生徒の興味・関心を踏まえた多様なものになっています。



チーム担任制の導入 今年度一年次より、一クラス一担任の固定担任制ではなく、一クラスに対して複数の担任が受け持つチーム担任制を導入しました。当地区内の高校では初の試みです。本校中学校においても同様の体制です。自ら考えて行動する生徒の育成や教育現場における働き方改革等を見据えた新しい取り組みです。試行しながらよりよい形にしていければと考えているところです。

中学校校舎（旧鶴北）の活用 令和二年七月に県教育委員会より致道館中学校・高等学校の「教育基本計画」が公表され、その内容に基づく生徒・教員の交流促進を実践しています。双方にとって過重な負担のない形で実践していきます。中学校にも設置されている部活動については、中学校校舎で交流しながら活動しています。

学校研究の促進 ICTを最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力を身に付ける支援を考えています。学校研究担当者を立ち上げ、本校のスケールメリットを生かし、初任者研修・教職五年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修・教職中長期経験者研修等とセット化したワーキンググループにより、授業研究に取り組むこととしています。授業研究に取組むこととして、「指導から支援へ」といったスタンスに立ち、SSH第三期

期事業においても、教員を「サイエンスポーター」と称し、その育成も図っていきます。校内校務分掌における課名も、学習支援課（教務課）・生徒支援課（生徒指導課）・キャリア支援課（進路指導課）・健康支援課（保健課）・メディアデジタル支援課（図書情報課）とし、生徒の活動を様々な場面で支えていく姿勢を示しました。また新たに、教育企画課（SSH課を含む新規業務担当）を組織立て、令和九年度に併設型中学校から進学してくる生徒と、周辺の公立中学校等から入学してくる生徒が共に学ぶことにおいて、どのように対応していくかという課題に取り組みむこととしています。総務企画課（総務課）においては、十月に予定している開校記念式典の準備等を進めています。

開校してもなお、道半ばでございます。試行錯誤、探究しながらの学校運営とはなっておりますが、同窓会の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。なお、本校のInstagram（インスタグラム）公式アカウント、YouTube（ユーチューブ）チャンネルの運営を開始しましたので、ご覧下さい。

校章校歌の紹介においては、制作者のコメント等を一部引用させていただいております。



Instagram



YouTube

教頭 梅津直志（南H2）

生徒インタビュー

致道館高校開校!! 雰囲気は? 目標は?

致道館高校がはじまって早くも七カ月が過ぎました。学校の雰囲気が良く毎日笑顔が溢れています。そんな中、生徒の皆さんに日常生活について質問をしてみました!

これからの致道館高校について

三年三組 亀井春花

令和六年度に開校したこの致道館高校ですが、話し合いでは両校それぞれの思いがあり、正直大変だったことが思い出されます。無事開校してからは毎日が目まぐるしく進んでいき、生徒の皆さんの要望を叶えきれないことが心苦しいですが、次の世代の生徒会に思いを託すこととします。鶴岡の高校といえば致道館!と思われるような学校を創っていきましょう。

◆ ◆ ◆
三年八組 齋藤遼平

生徒会理事会への言葉でもあるのですが、生徒の意見をしっかりと聞いてほしいと思います。生徒の意見を聞くことはこの理事会の活動において最も重要なことだと思います。生徒全員が望む学校の実現は少しの期間では叶えることは

できず、私や同窓会員の先輩、そして次の世代の生徒の思いが募り募って実現するものだと思います。それを自分の学年で実現できなかったことは悔しいですが、次の世代の理事会、生徒が実現してくれたらそれはとても嬉しいことです。致道館高校はその実現を目指せる良い場です。その実現を目指して頑張っていくてほしいです。

新しい学校生活の感想

二年八組 落合優成

本年度から、生徒数が大きく増加したことで、様々な趣味を持つ人と関われるようになりました。お互いの「好き」を共有することはとても楽しいことですし、それが合致した時の喜びはひとしお。今は、インターネットで、なんでも簡単に調べられる時代ですが、やはり物事は、それを心から愛する人達から知ること、得た知識に深みが増して、心地良いものです。

◆ ◆ ◆

二年二組 鈴木梓音

私は致道館高校の生徒となつてこの三ヶ月弱だけでも一年生のとくと比べて物にならないくらい挑戦ができたと感じています。授業もイベントも私に新しい衝撃と感覚を与えてくれたと思

ますし、クラスメイトだけの交流だけでなくゼミでの他クラスの生徒とともに興味深い研究活動をして嬉しいです。これからの経験と知識を積み学校生活を満喫したいです。

◆ ◆ ◆

一年二組 伊藤蒼生

入学前、私は高校生になるのが怖かったです。先輩や先生に圧倒され、難しい勉強に追われるだけの日々を送るのだと思っていました。しかし実際に高校生になった今、私の毎日はとても充実しています。勉強に部活に、たくさんやるべきことがあり忙しい日々ですが、大好きな友達とそんな毎日をごせることを誇りに思います。

◆ ◆ ◆

一年四組 佐藤美峰

高校に入って僕と似たような境遇や考えの人が多くて、中学校よりも毎日



が楽しく感じます。例えば僕の両親は鶴岡市内の小学校で教員をしているのですが、そんな感じで親が教員の人が結構多くあるなどの話で盛り上がったりしています。庄内の各地から様々な人が集まっているので毎日が新鮮な気持ちで過ごしています。



あとがき

最後までお読み頂きありがとうございます。文化祭、クラスマッチと二大行事を終えた今、各クラスの仲の深まりを感じています。生徒の皆さんも忙しくも充実した毎日を送っているのではないのでしょうか。今年も残すところあと少し、一年の疲れが溜まってくる時期ですね。体調に気を付けて頑張りましょう!

致道館
高等学校

北海道同窓会

R6 7.13(土)

会場 中村屋旅館 出席者 8名

この度、致道館高等学校同窓会事務局長佐藤守様よりご臨席頂き第1回北海道同窓会を開催しました。総会では新会長に選出されました芳賀卓様から南高の思い出などを織り交ぜたご挨拶を頂き、佐藤事務局長からはご祝辞や致道館高等学校の近況についてお話を頂きました。次に魚住相談役のご発声で懇親会に入り、庄内藩の歴史などを語り合い大変に盛り上がりしました。最後は「山河の姿…」を熱唱して締めくくりました。尚、次回からは6月最終土曜日に同窓会を開きますので同窓生の皆様、機会がありましたらお立ち寄りください。



致道館高等学校

各地の同窓会

東京如松会

R6 5.26(日)

会場 明治記念館

出席者 会員110名・来賓19名・
東京鶴翔同窓会8名・山伏4名 計141名

今年は第70回の記念の集い。首都圏山伏会の方々にも東京如松会の益々の繁栄と参加の皆様のご健勝と安全を祈願していただいた。また、東京鶴翔同窓会と本会の近い将来の合併に向け、お互いを理解し合うために東京鶴翔同窓会の方々8名にも参加していただいた。明るい素敵な会場で気品溢れる雰囲気を保ちながらも、テーブルを超えて参加者同士・来賓や鶴翔の方々とも大いに盛り上がり、和やかな雰囲気の集いだった。



致道館
高等学校

山形同窓会

R6 9.11(水)

会場 山形グランドホテル 出席者 53名

致道館高等学校同窓会副会長田中芳昭様、同校校長遠田達浩様にご出席いただき、「山形鶴翔同窓会」名で最後になる第42回総会・懇親会を開催。議事で名称を「致道館高等学校山形同窓会」へ変更し、新たに会則を制定。初めて鶴北高卒業生2名の参加を得て、南高卒会員との懇談も大いに弾みました。最後に全員が輪になり手をつなぎ「鳳嶺月峰」を熱唱し、鶴翔同窓会の名を惜しみながら会を閉じました。



致道館
高等学校

仙台同窓会

R6 8.31(土)

会場 江陽グランドホテル 出席者 28名

南高校と北高校が一緒になって初めての仙台同窓会を佐藤事務局長、遠田校長先生にご出席いただき、開催しました。澤井高志氏(南高校S42年卒)によるミニ講演や懇親会では皆さんの近況や高校時代の思い出等のスピーチがあり、楽しいひと時を過ごしました。



東京鶴翔同窓会

R6 11.9(土)

会場 アートホテル日暮里

詳細次号

致道館
高等学校

新潟同窓会

R6 11.9(土)

会場 アートホテル新潟駅前

詳細次号

同窓生からのお便り

校歌を作詞する

佐藤賢一（南S61）



鶴岡南高校と鶴岡北高校が合併、致道館中学・高校という新たな一貫校に生まれ変わる。ついては校歌も新しくするので、作詞を頼めないかと話をいただいたのは、昨秋のことだ。私としては晴天の霹靂、まるで予想していなかった。文章を書いて暮らす身とはいえ、校歌どころか作詞の経験すら皆無だったからだ。迷わないではなかったが、せっかくの話ということもあって、引き受けることにした。

で、どう書くか。最初に決めたのは、今風の歌詞にはすまいということだった。つまりは、ひらがな、かたかなを多用して、柔らかく、とっつきやすく、わかりやすくというような歌詞だ。それが悪いわけではないが、致道館中学・高校には合わない気がした。鶴岡は漢文こそが似合う町だと思うからだ。その伝統を受け継ぐ学校の校歌であるなら、まさしく漢字ばかりで、古めかしく、近よりがたく、難解なくらいの校歌であるべきなのだ。

校名は藩校から継いでいるが、その「致道」からして『論語』から引いた

言葉である。加えるに『孟子』やら、西郷隆盛の言葉やら、この土地のエトスを培ったと思われる言葉を探し探し、それを短く加工して、さらにリズムを整えて——できた校歌の仕上がりは、どんなものだったろうか。

今年は活動的な盆休み

松田正彦（南S61）



盆休みの初日、少ない人数だったが久しぶりに同級会が開かれた。卒業二十周年の合同同窓会を最後に会っていった友人とも久しぶりに会えたり、みんなそれなりに年を取ったものの、担任の奥山和司先生（写真前列左から二人目）が持ってきたアルバムを見ては昔の記憶を呼び起こし、あつと言っ間だったが楽しい時間を過ごさせてもらった。

その翌々日には、群馬に嫁いだ長女宅に次女を連れて向かった。妻（鶴北、昭五十八卒二十九回）が初孫の世話をするため二ヶ月前から滞在していたので、迎えに行くことも目的の一つ。孫は子よりも可愛いとか、目に入れても痛くないとはよく言ったもので、孫ができるとその意味がよく分かる。

五ヶ月になつた孫はいろんな表情を見せてく



は、今ではすっかりメロメロなおじいちゃんになって

盆休み最後の三日間は妻孝行で新婚旅行以来三十四年ぶりに北海道旅行にかけた。美味しい海鮮料理に舌鼓を打ち、当時なかったエスコンフィールドを訪れてみた。球場を中心とした街づくりをしていて、年配の方が孫を連れて遊びに来ており、ゲームがないにもかかわらず大勢の人で賑わっていた。夫婦で致道館高校同窓会員となったことに少し違和感を感じながらも、昔を思い出し活動的に動いた一週間であった。

仕事もプライベートも

庄司小夜子（北S61）



高校卒業と同時に郵便局に就職し、現在に至っています。その間何度かの転勤

（庄内地域のみ）を経て、地元でもある藤島郵便局の局長となり四年目にな

ります。地域に於いて、お客さまに安心してご利用いただけるよう日々の仕事に努めています。

プライベートでは、趣味の旅行を楽しんでいます。どちらかと言えば、豪華ではなく、質素な貧乏旅行が私のスタイルです。特に数年前から、JRの普通列車・快速列車の普通自由席のみ乗り放題の「青春18きっぷ」での鉄道旅にはまっています。鉄道ファンにはお馴染みだと思いますが、私がその存在を知ったのが五十歳過ぎてからなので、遅咲きの利用者です。春・夏・冬の三シーズン発売されている中、仕事の都合で利用できるのが夏のみ、さらに五日間連続利用が無理なので、三日と二日に分けて利用しています。旅行中が楽しいのは勿論ですが、計画を立てるのも同じくらい楽しくて、時刻表とガイドブックを広げて、想いを巡らすのが至福の時間でもあります。今年も漏れなく行ってきました。去年までは違い、娘が同行したことで、何故かいつもの年より豪華（笑）な旅になりました。

来年も一緒に行ってくれるかな。



新高校にて奮闘中

丸谷友紀(北H1)

庄内地区にて高校教員として勤務しておりましたが、縁あってこの四月に開校した致道館高校に教頭として着任いたしました。職員は一〇〇名弱、生徒は八六八名で職員も生徒も県内トップの大手帯です。先生方はしっかりとわかるようになりましたが、生徒の皆さんを全員わかるようにはなかなかありません。しかし、授業も持っているの生徒たちがどんなふうに学校生活を過ごしているのか垣間見ることもでき、面白い日々です。伝統ある両校が一つになった新高校はいろいろな意味で可能性いっぱい的高校であると感じます。期待されているからでしょう、地域の皆様からお叱りのお電話を受けることもあります。そんなときこそ、真摯に受け止めていかなければならないと感じます。どこに勤務してもそうですが職員、生徒ともに充実した学校生活となるように一生懸命、業務に当たるのみです。両校の同窓生の皆様には鶴岡南卒、北卒という垣根を取っ払って、新高校を応援していただけるとうれしいです。鶴岡南高校を改築し、



5月東京如松同窓会にて代理で出席



7月第一回致道館同窓会にて恩師を囲んで同期等とともに

す。カフェのような素敵な空間で懐かしい高校時代を思い出してはいかがでしょう。本校にお越しの際はぜひお立ち寄りください。お待ちしております。

幸せになるために生きていく

平形洋司(南H8)



致道館高等学校同窓会の皆様、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度は、同窓会報に寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。私は平成八年一九九六年に旧鶴岡南高等学校理数科を卒業した平形と申します。私は大学卒業後、神奈川県川崎市で障害福祉の職に就きました。二〇一二年に鶴岡市に戻り、現在も障害福祉で精進しており、主に障害児に携わっています。

私の役割は、子どもたちに幸せになつてもらうことです。幸せとは、人を笑顔にすること、人に喜んでいただくことです。子どもたちの絵をいただいでくださる介護施設、子どもたちの作成した缶

バッチをノベルティとして買い取ってくださる車屋さん、お店の記念品として手ぬぐいのデザインに絵をご使用いただきたり、カレンダー



ダー作成にご協力いただいたデザイナーの方、虐待防止のオレンジリボン運動の制作や配布にご協力いただいた団体の方々など。多くの地域の方々子どもたちに活躍の場を与え、幸せへと導いていただいております。

この鶴岡の地は人を成長させていく基盤がしっかりとあることを改めて実感している次第です。

子どもたちに良縁、地縁を育んでいただいた先人の方々そして、皆様に心より感謝申し上げます。

たくさんの方へ感謝

樋渡淳子(北H8)



私が所属していた水泳部の練習は厳しくも、充実した高校生活でした。そんな

中、練習が始まるまでの放課後、校内に響き渡っていた合唱部の「鶴北サウンド」の音色がとても心地よかったです。その後、大

学進学と同時に庄内を離れましたが、一四七年続く実家の「うなぎ割烹治郎兵衛」を継承するため酒田に戻ってき

てから、二十五年が経ちました。十年前に父が亡くなり、現在はお店の女将として、経営者として、たくさんの人に支えていただいていることに感謝しながら、日々、奮闘しています。

このような立場になって、あらためて気づかされる事がとても多く、特に庄内人の人柄の良さ、そして豊かな自然、美味しい食材など、この魅力ある庄内地域をもっと多くの人に知ってもらいたい。そんな想いを形にした「女鶴秀米(めづるしゅうまい)」を店の名物として庄内から全国へ届けています。県立致道館高等学校同窓会会報発行、誠にありがとうございます。

私の母校である県立鶴岡北高校は統合しましたが、私たちの後輩や未来を担う子ども達には「気品深刺」の校風を忘れずに、母校に対する感謝と誇りを胸に歩んでほしいと思います。そして、素晴らしい活躍を心より願っております。





北
昭和44年卒
クラス会

令和六年六月七日、湯野浜ホテル亀屋を会場に、遠方からも多くの方に参加頂き、又担任でありました東山先生もご多忙の中駆けつけて下さり二十一人が集い十四年ぶりのクラス会を行いました。

先ず驚いたのは先生の若々しき、背筋がぴんと伸び、そのお話し時の滑舌の良さ。教師にならなれたいきさつや、大病もされた先生の死生観、どの言葉も私達の心の中に沁み入るものでした。又生きて行く為の数々の知恵をたくさん授けて頂きました。

そして皆さんの近況報告です。まだまだ現役でお仕事を頑張っている方、それぞれの地域で活躍されている方、皆若々しく元気で鶴岡北高校の「気品・澁淵」の校風が息づいているのだな、と改めて思いました。卒業以来初めて参加下さった方もおりましたが、高校時代を一緒に過ごした証しでしょうか、すぐに十八才の女学生に戻り、おしゃべりに夢中になりました。

そしてこれから我々の母校となる致道館高校の校歌を聴き最後は北高校の校歌です。いつも指揮をしていた彼女の指揮で。その素敵な歌声は会場いっばいに広がりおひらきとなりました。

北高は致道館高校となりましたが「気品・澁淵」を忘れず、輝ける未来を育む場となる事を願っております。

あの日の会場から見た夕陽のすばらしさ、忘れられません。

〈鈴木美佐子〉



南
昭和46年卒
同期会

第七十八回卒五十三周年同期会を、九月十四日、東京第一ホテル鶴岡にて、恩師二名、同期七十九名の出席のもと開催しました。

今年度は「致道館高校」開校の年、開会前に「母校見学」と称して遠田校長先生より校内を案内していただきました。新たな学び舎でスタートを切った後輩の皆さんには、更に新しい輝かしい歴史を築いてほしいと願ってやみません。

同期会では、冒頭、黙祷、そして羽黒山伏の資格を持つ同期の百瀬清昭さんより古希払いご祈禱をしていただいたあと、小林好雄実行委員長の挨拶、恩師である椎名和子先生、齋藤進先生よりご挨拶、恩師への記念品贈呈と続き、元校長の田中芳昭さんの乾杯のあと懇親に入りました。開宴してまもなく三年間同じ学び舎で過ごした仲間故、あちこちで旧交を温める輪ができ、当時流行ったフォーク・GSのBGMが流れる中、おおいに盛り上がっていました。今回は現在米国ニューヨークで医師をしている姜国鎮さんもわざわざこの日のために駆けつけてくれ、思い出に花を咲かせてくれました。

最後に当時応援団の本間道生さん、本間光俊さんのリードで校歌斉唱、酒井英一さんの閉会の言葉があり、次回また元気な姿で再会できることを誓い合いお開きとなりました。

〈佐藤満也〉

南
昭和55年卒
同期会



四十四周年同期会『花菜の会』

今夏、八月十一日(日・山の日)コロナで中止になっていた四十周年同期会の替わりに四十四周年同期会を「ペルナール鶴岡」で開催した。当初の目標は、一〇〇名以上の参加者を集めることだったが、住所などがガラリと変わり、連絡が取れない同期生もいる中、携帯やメールなどを駆使してようやく八十二名の参加をいただきながら、会を催すことができた。恩師五名、同期生七十七名であった。

乾杯をする前に恩師の話を聞き、竹の露の社長の相沢君よりいただいた大吟醸で鏡開きをし、会はスタートした。一次会は二時間半位だったが、四十四年ぶりに会う人もいて大いに盛り上がった。二次会はすぐ近くの「岡ざき」で四十四名も参加してくれた。一次会では話足りない飲み足りない人が多かつたらしく、クラスを超えて交流ができた。さらに、まだ飲み足りない人のために「メイプル」で三次会をし、歌えや踊れやの大盛り上がりであった。三次会には十二名参加してくれた。今回が最後と思うてはいたが、また集まりたいという声が上がっていた。今度、地元にいる同期会忘年会を開催しながら、今後の同期会開催に向けて検討していきたい。

〈難波孝之〉

南
昭和57年卒
同期会



致道館高等学校同窓会会報、第一号のご創刊誠におめでとうございます。

創刊に際しご尽力下さった皆様には厚く御礼申し上げます。

私たち鶴岡南高等学校第八十九期(昭和五十七年卒業)は、二〇二四年八月十一日に鶴岡のグラウンドエル・サンにて同窓会を開催しました。コロナ禍で卒業四十周年の同窓会が開催できず、二年遅れて「還暦を祝う会」として行われたものです。

卒業生二五七名のうち一三五名が参加しました。開会の挨拶に続き物故者(先生二名含む十六名)の方々に黙祷しご冥福をお祈りしました。

実行委員長難波理君の挨拶の後、来賓の小林義明先生、滝口孝志先生にご挨拶いただきました。お二人ともそれぞれの言葉で「還暦を迎えても青春を謳歌し、夢中になれることに取組んでほしい」と激励してくださいました。

阿部正彦君制作のプロ顔負けのオーピングムービーを鑑賞し、乾杯に続いて歓談となりました。会場は懐かしい旧友との再会を喜ぶ歓声と弾ける笑顔で埋め尽くされました。

応援団長青柳等君の掛け声で南高の校歌を歌い、三三七拍子、フレー・フレー鶴南!を唱和した後、一本締めで終了しました。

このような夢のようなひと時を作っていたいただいた実行委員の皆様には深く感謝するとともにまた会える日まで良い歳を重ねていきたいと思えます。

〈関口太郎〉

南
平成6年卒
同期会



令和六年八月十一日、近年の記録的な暑さに負けない、記憶に残る熱い「第一〇一回卒鶴岡南高等学校同窓会」が東京第一ホテル鶴岡を会場に開催されました。

卒業から三十年、十年前の同窓会がついこの間のように思われる時の早さに戸惑いながら、そして「何人位参加してくれるのか」という不安もありながら、実行委員会が十年ぶりに動き出しました。しかし蓋を開けてみれば、一次会八十五名、二次会六十三名と予想を超える参加でした。一組佐藤孝敏先生、二組岩本篤先生、三組諸原正巳先生、四組藤井信二先生、五組五十嵐一明先生、六組夷藤雅純先生、そして忙しい中全国から駆け付けてくれた同窓生の皆様に心より感謝いたします。

佐藤知志実行委員長の熱のこもった挨拶に始まり、担任代表で御挨拶をいただいた諸原先生の「あの時担任は全員三十代前半から半ばだった」という言葉に少なからず衝撃を受けたのは、私だけでしょうか。そんな先生方の年齢をとうに越えてしまった私達ですが、会えば高校時代に戻ったかのように、先生方や友達との懐かしい関係性はそのまま、当時の思い出や現在のことを、時間を惜しんで語り合いました。この会は、一〇一回卒にちなんで「祝いの会」と名付けられました。また十年後の再会を、皆様と祝えることを願って。

〈佐藤(早坂)百合子〉

南
平成7年卒
同期会



九月二十一日、グランドエル・サンにおいて鶴岡南高校第一〇二回卒業生同期会が開催されました。卒業二十年の会を平成二十七年に行い、あれから早九年。その間にお亡くなりになった方もおり、あらためてご冥福をお祈り申し上げます。

さて、この四月から母校が致道館高校となりました。十年ごとに行う予定だった同期会ですが、新たな同窓会において平成七年三月卒業の私たちの学年が今年度の同窓会実行委員会の卒業三十年の当番学年となったことから、これにあわせての開催となりました。

この日は、前日からの大雨予報で特急いなほも全て運休となり、残念ながら急遽参加できなかった方もいましたが、恩師の先生五名、同期六十三名の総勢六十八名が参加。中には卒業以来約三十年ぶりに会う仲間もいましたが、顔を合わせた瞬間から会話が弾み話題は尽きません。みんな相応に歳を重ね、月日の流れを感じはしましたが、最後の校歌斉唱まで、高校時代の熱量そのままに、ただただ楽しい会になりました。今回の会をきっかけに、同級生の絆がさらに深まったなら幸いです。最後になりますが、準備をしていただいた実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。また十年後、還暦のちよっと手前になりますが、元気に会いましょう。

〈若生真人〉

南
平成12年卒
同期会



令和六年八月十一日、東京第一ホテル鶴岡にて鶴岡南高等学校第一〇七回卒（H12年卒）の同窓会を開催致しました。本来であれば四年前に卒業二十周年の節目として開催する予定で企画を進めていた中、新型コロナウイルスの影響が甚大になり開催の断念を余儀なくされました。今年正月に再び同窓会の開催に向け再スタートを切り、七か月の準備を経て開催にたどり着きました。当日は仕事や家庭に多忙な中、恩師の先生方五名を含む約九十名が集い、蘇る当時の思い出話を花を咲かせ、旧友との繋がりを再構築するきっかけになったりと、笑顔と笑い声の絶えない素敵な時間となりました。参加した同級生達からも「来てよかった」「楽しかった」「次またやろう！」など多数の声を頂き、四年越しの同窓会は最高に楽しくそして次に繋がる実りある同窓会となりました。体感として、当時を懐かしみ会いたいとは思っていてもきっかけがないとなかなか・・・、私も含めそんな方が多くいるように感じました。今回の同窓会はそんなきっかけの一つとして大いに意義があったと感じております。参加してくれた仲間、駆け付けてくれた先生方、そして七か月の準備期間惜しみなく協力してくれた仲間にこの場を借りて心より感謝致します。

〈渡部正之〉

南
平成16年卒
同期会



栄えある致道館高等学校同窓会報の第一号に掲載頂けること大変うれしく思っております。鶴岡南高校第一一期生の卒業二十周年記念同窓会は八月十一日の午後三時よりグラウンドエルサンにて開催しました。

卒業後ではじめての同窓会ということもあり、参加人数に不安がありました。が、往復ハガキと各クラスのLINEグループを併用し出席者を募りました。その結果、各クラス担任の先生方六名を含む、総勢八十二名での開催となりました。

コロナ禍もあったことで、会うのが二十年ぶりという仲間も多かったのですが、顔を合わせればすぐに打ち解け、会場はさながら休み時間の教室のような盛り上がりを見せていました。

当日は別会場で異なる年代の同窓会が開かれており、二会場かけもちの先生もいらっしやいましたが、時間を融通していただき、無事先生全員からスピーチを頂くことが出来ました。対応していただいた先生方、大変ありがとうございました。その後、応援団と有志による「鳳嶺月峰」斉唱、檄文の読み上げ、エールを行い、最後は参加者全員で「山河の姿」を歌い、お開きとなりました。

十年後の三十周年記念でも今回と変わらず「元気に活くる一一期生」として同窓会を開催できることを楽しみにしています。

〈佐藤友紀〉

恩師からのお便り

鶴岡南高・北高



田村 裕先生
(南S60)

1 鶴南・令和3年4月～令和6年3月
鶴北・平成17年4月～平成28年3月

2 地歴（地理）

3 鶴岡南高校には三年間お世話になりました。致道館中学・高校の開校準備に関わる業務に携わり、苦難もありましたが大変充実した三年間を過ごさせていただきました。私自身鶴岡南高校卒、そして鶴岡北高校十一年間勤務ということもあり、両校の統合による新高校の開校には殊に思い入れがありました。振り返ると、さまざまな人との出会いや関わりを通じて多くのことを学び、助けられたという気持ちでいっぱいです。人生や仕事上で苦境の時、救ってくれたのは恩師であり同僚・仲間でした。彼らのお陰で、私はあらゆる苦難を克服することができましたし、自身変わることができたと思います。教員として、人間として大きく変化・成長できたのは間違いなく、教師人生の中で出会った恩師や先生方・生徒諸君との関わりであったと感じています。致道館高校生徒のみなさん、今後みなさんが関わる人との出会いを大切にしてください。人との出会いに刺激さ

れ、自身が変化・成長することはみなさんの可能性を広げることにつながります。高校時代に一人でも多く信頼できる人に出会い、関わりを持ち、触発されてください。それは必ずやあなたがこれからの人生を逞しく、しなやかに生きていく糧になるはずですから…。



鶴岡北高
後藤 英実先生
(南S62)

1 平成25年4月～平成31年3月
令和5年4月～令和6年3月

2 地歴公民・テニス・剣道・バレー・バドミントン

3 鶴北に通算七年お世話になりました。教諭時代は、男子入学、学級減や行事の見直しなど、大きな節目に関わりました。平成二十六年に男子一名入学、翌年は一挙に十人入学、その後も増えていったのは、最初の生徒の勇気と努力の賜物と思います。三年間のバドミントン部は、個人で南東北IHや全国ジュニアオリンピックに出場。保護者からの感謝と労いの言葉は、今でもありがたく思っています。音楽部のNHK全国コンクール金賞の放送直後には、多くのお祝いの電話がありました。ともに活躍してきた鶴北と鶴南が統合して化学反応を起こし、新たなサウンドを奏でるものと期待しています。思いもよらなかった二度目の鶴北赴任。統合と閉校の準備、改修工事の中

での学校生活は、生徒・教員の心身の負担は重く、私もかつてない不安な日々でしたが、頑張る生徒と優しい先生方のお陰で、何とか踏ん張ることができました。鶴南同期の阿部智通・菅澤宏昭・長谷川晃の各氏と致道館の準備に携わったのも運命でしょうか。三人には感謝しかありません。

教頭になって、鶴北以外は、新庄三室、酒田光陵、鶴岡中央と統合校にお世話になっていきます。各校とも魅力に溢れ、私は充実した日々を送っていますが、あらためて学校の存在意義を考えています。大学合格やSSHは確かに大切ですが、それらは成長し自律するための方法や機会にすぎません。「仏作って魂入れず」とならぬよう、弱い立場や困っている人を支え、社会を先導する「志」ある人間が致道館で育ってほしいと願っています。



鶴岡南高・北高
五十嵐 潮先生
(南S57)

1 鶴南・平成6年4月～平成21年3月
鶴北・平成21年4月～令和6年3月

2 専門教科は数学で、二校で色々な部の顧問を経験しました。

3 六十歳のこの春、鶴岡北高最後の生徒たちの年次主任として彼らの卒業を見送り、自身も教員生活にピリオドを打ちました。思えば三十八年間の教員生活の三十年も鶴岡南、鶴岡北で過ご

したことになりました。鶴南では三回の担任のち理数科主任を、鶴北では年次主任をしたのち進路課長、そして最後にもう一度年次主任をしました。鶴南時代は若さとパワーで仕事をしていた時代であり理数科主任としてSSH指定に向けて調査研究に邁進していた時代でした。残念ながら完遂できず、鶴北に転勤となりましたが、その時に勉強した経験が大いに役立ちました。鶴北時代は言うならばこの経験をものにリーダーとして多くの人たちから支えてもらいながら仕事をした時代でしたが、自分なりに仕事はやりきった感があります。今は矢吹丈のように真っ白な状態です。そして、しみじみステイプ・ジョブズの次の言葉を噛みしめています。「将来を予想して、点知識や経験など」と点をつなぐことはできない。後々の人生で振り返った時にしか、点と点をつなぐことはできない。今やっていることが、将来、自身の役に立つ（点と点がつながる）と信じて取り組みなさい。」教員として経験した全ての点は最終的に「鶴北最後の生徒たちの年次主任として卒業を見送れたこと」に結びついてきたと実感しています。私の人生はこれからも続きます。これから現れる点が最終的にどのような繋がるのか楽しみにしながら、母校鶴南、そして鶴北の良さを礎に致道館高校が素晴らしい伝統を築いていけるように応援し、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

母校だより

令和5年度の卒業生

鶴岡南高校 196名

鶴岡北高校 114名

令和6年度の異動

(転出)

鶴岡南高校

田村 裕

(教頭・地歴・農林大学校副校長)

齋藤和輝

(地歴・酒田光陵高校)

田中 勉

(数学・退職)

五十嵐雄大

(理科・鶴岡中央高校)

田代智行

(保体・酒田西高校)

松本光治

(音楽・置賜農業高校)

五十嵐一明

(英語・鶴岡中央高校)

小坂 雄

(英語・退職)

菅原和恵

(英語・退職)

上林伊理

(事務部次長・致道館中学校)

森 明奈

(主査・庄内総合支庁税務課)

鶴岡北高校

難波 理 (校長・県教育センター)

後藤英実

(教頭・地歴公・鶴岡中央高校)

吉續正明

(地歴・鶴岡中央高校)

五十嵐 潮

(数学・退職)

高橋貴美

(理科・庄内総合高校通信制)

宮内 悟

(保体・酒田西高校定時制)

百瀬敦子

(音楽・鶴岡工業高校)

佐々木ひとみ

(書道・霞城学園高校定時制)

安藤富美

(常勤講師・国語・庄内総合高校全日制)

堀米晃子 (常勤講師・国語・退職)

吉泉亜美 (常勤講師・数学・退職)

門田正彦 (常勤講師・数学・退職)

佐藤 厚

(常勤講師・英語・遊佐高校)

佐賀井 仁 (非常勤講師・理科・退職)

澤田美佳 (非常勤講師・保体・退職)

伊藤光利 (非常勤講師・美術・退職)

青木美登利 (養護教諭・退職)

小柴佳奈 (実習講師・米沢商業高校)

吉田幹二 (事務長・鶴岡養護学校)

佐藤雅之 (主任主査・酒田光陵高校)

結城芽依 (主事・県立図書館)

伊藤 玲 (学校司書・致道館中学校)

齋藤 孝

(学校技能員・致道館中学校)

黒石光則

(嘱託技能員・致道館中学校)

〔転入〕

致道館高校



丸谷友紀 (教頭・理科・庄内総合高校通信制)

岡崎貴聡 (地歴・酒田西高校定時制)

小松幸樹 (地歴・庄内総合高校)

藤井健司 (数学・加茂水産高校)

沼倉隼人

(理科・上山明新館高校・新採)

友野 抗 (理科・鶴岡中央高校)

梅本尚志 (保体・酒田西高校定時制)

増子 牧 (音楽・鶴岡工業高校)

井上亮子 (英語・酒田西高校)

後藤 暁 (英語・酒田東高校)

池野克哉 (英語・鶴岡中央高校)

佐藤 忠 (常勤講師・国語・酒田光陵高校)

松森 昌 (常勤講師・地歴・酒田西高校)

佐直多笑 (常勤講師・保体)

阿部ゆい (常勤講師・書道・鶴岡第五中学校)

高木啓道 (常勤講師・数学・情報・山形南高校)

阿部貴和子 (養護助教諭・藤島中学校)

富塚志乃 (事務部次長・庄内総合支庁地域産業経済課)

山口美那子 (主任主事・鶴岡工業高校)

※鶴岡南高校、鶴岡北高校からの転入は掲載省略

進路状況

令和5年度進路状況

- ① 東京大 1名合格
- ② 一橋大 1名合格
- ③ 医学部医学科 4名合格
- ④ 東北大 3名合格
- ⑤ 国公立大 167名合格

合格状況

それぞれがすばらしい歴史と伝統を持つ鶴岡南高校、鶴岡北高校として最

後の卒業生となった今春の卒業生は、自らの目標に向かって真摯に努力を重ね、国公立大にはのべ167名が合格し、有終の美を飾った。在籍数に対しての合格率は52.9%であった。

例年通り、超難関大、難関大にも多数の生徒たちが果敢に挑戦した。現役生の難関大学合格状況は、東京大1名、一橋大1名、東京外国語大1名、お茶の水女子大2名、東北大3名、北海道大4名、筑波大1名、国公立大医学部医学科4名、国公立大獣医学科1名などであった。合格者数が多かった国公立大学は、新潟大35名、山形大22名、秋田大7名、埼玉大7名、秋田県立大9名だった。近隣や関東圏の大学への志願者が多い傾向は変わっていない。3年間学習を積み重ねて基礎学力を培ってきたことが、国公立大に多数の167名が合格するという実績に繋がった。

私立大学は、慶應義塾大2名、早稲田大1名、上智大1名、東京理科大6名、中央大7名、明治大6名、立教大2名、立命館大3名、同志社大1名など、難関大にも数多く合格者を出した。また、難関の防衛大学校に2名合格。

山形県立米沢女子短期大2名など短期大にはのべ12名、仙台医療センター附属仙台看護助産学校1名、鶴岡市荘内看護専門学校5名など専修・各種学校にはのべ28名が合格。のべ7名が公務員に合格している。

キャリア支援課長 真嶋亮子

早稲田	1
慶応義塾	2
上京理	1
立東理	6
立明教	2
明法政	6
法山学	7
青山学	3
中央	7
同志社	1
立命館	3
その他	383
私立大計	422

北海道	4
帯広畜産大	1
弘前	3
岩手	2
東北北	3
宮城教	3
秋田	7
山形	22
福島	5
茨城	5
筑波	1
群馬	2
宇都宮	2
埼玉	7
東京	1
東京外大	1
お茶の水女子	2
一橋	1
千葉	2
新潟	35
富山	2
金沢	3
信州	1
秋田県立	9
山形県立保健医療	5
東京都立	3
横浜市立	2
新潟県立	7
その他	26
国立大計	167

進路状況 (実人数)

卒業者数	310
国公立大学	161
私立大学	98
短期大学	7
各種学校等	23
進学者計	289
就職者	5
進学準備等	16

各種大会記録

(8月23日現在 東北大会以上)

◆陸上競技部

〈東北高等学校陸上競技大会〉

男子 100m 予選第6位

11秒01 齋藤幹泰

400mH 予選第5位

57秒05 山村拳矢

棒高跳 第9位

4m00 松山由依

やり投 第6位

55m24 渡部未来

女子 400m 準決勝第4位

59秒54 成田 隼

100mH 準決勝第4位

15秒08 和田 隼

400mH 第4位

1分03秒09 成田 隼

走幅跳 第31位

4m89 齋藤愛梨沙

やり投 第35位

25m56 齋藤愛梨沙

400mR 準決勝第6位

48秒92 致道館

1600mR 準決勝第4位

4分02秒90 致道館

(今田・和田・角田・成田)

〈全国高等学校陸上競技大会〉

男子 やり投 予選第28位

50m89 渡部未来

女子 400mH 予選第8位

1分05秒47 成田 隼

1分05秒47 成田 隼

〈東北ジュニアテニス選手権大会〉

U16シングルス・ダブルス 出場

池田陽貴

池田陽貴

◆アーチエリート部

〈東北高等学校アーチエリート選手権大会〉

男子団体 優勝

小角知、長南剛志、五十嵐大翔、門脇優安

女子団体 出場

菅野由貴、木村日子、富樫真花、小角和

男子個人 3位

五十嵐大翔

女子個人 6位

菅野由貴

〈全国高等学校総合体育大会〉

男子団体予選 33位

小角知、長南剛志、五十嵐大翔、門脇優安

(予選ラウンド敗退)

女子団体予選 33位

菅野由貴、木村日子、富樫真花、小角和

(予選ラウンド敗退)

男子ダブルス 石川巧人・佐藤廉時

1回戦敗退

女子ダブルス 佐藤菜菜・小林桃子

1回戦敗退

吉住未穂・池田花保

1回戦敗退

1回戦敗退

大瀧若菜

予選 4中/8射

女子個人

予選

4中/8射

男子200m自由形

3年 小林竜士 3位

男子200m自由形

3年 小林竜士 3位

男子200m自由形

2年 佐藤壮一郎 10位

男子100m自由形

3年 小林竜士 10位

男子100m平泳ぎ

2年 阿蘇湊音 13位

男子200mバタフライ

2年 渡部莉央 15位

女子400m自由形

3年 安野 憧 9位

女子100m自由形

3年 小竹杏奈 14位

女子50m自由形

3年 小竹杏奈 11位

男子400mリレー

(小林竜士、三井 昊、清水一瑳、佐藤壮一郎) 9位

男子800mリレー

(小林竜士、三井 昊、清水一瑳、佐藤壮一郎) 9位

女子400mリレー

(安野 憧、前野優菜、小竹杏奈、五十嵐清花) 15位

〈全国高等学校総合体育大会〉

男子200m自由形

3年 小林竜士 出場

吹奏楽研究会

〈東北吹奏楽コンクール〉 銅賞

音楽部

〈第91回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール〉 銅賞

〈第76回全日本合唱コンクール東北支部大会〉 銀賞

設置外活動

〈アマチュアキックボクシング大会〉

DRAGONBOXINGSTADIUM2024

U2055キロ級チャンピオン 五十嵐希采

SSH

〈R6SSH生徒研究発表会〉

成田純彩 学校奨励賞

成田純彩 学校奨励賞

誠にありがとうございます

叙勲・表彰

令和5年6月1日～令和6年10月1日

(敬称略)

加藤 捷男	南S35	令和5年10月	鶴岡市政功勞表彰(産業経済功勞)
佐藤 昌一	南S37	令和5年10月	瑞宝双光章(教育功勞)
阿部 信矢	南S40	令和5年秋叙勲	旭日中綬章(地方自治功勞)
小柳 秀記	南旧職員	令和5年秋叙勲	瑞宝小綬章(教育功勞)
石黒 豊	南S45	令和5年秋叙勲	旭日双光章(保健衛生功勞)
遠藤喜一郎	南S29	令和5年12月	旭日双光章(地方自治功勞)
長南 忠	南S30	令和5年12月	瑞宝双光章(教育功勞)
玉木 睦	南旧職員	令和6年1月	瑞宝小綬章(教育功勞)
佐藤 仁	南S31	令和6年2月	瑞宝双光章(教育功勞)
花岡 正紀	南S29	令和6年3月	瑞宝双光章(教育功勞)
板垣 壯典	南S33	令和6年春褒章	藍綬褒章(社会福祉功績)
佐藤 修一	南S39	令和6年秋叙勲	瑞宝小綬章(教育研究功勞)
佐藤 進	北校長・南旧職員・南S30	令和6年5月	瑞宝小綬章(教育功勞)
佐藤 尚	北校長	令和6年8月	瑞宝小綬章(教育功勞)
奥山 保弥	南S30	令和6年9月	瑞宝双光章(教育功勞)
渡部 長和	南S44	令和6年9月	鶴岡市政功勞表彰(地方自治功勞)
國井 英夫	南S44	令和6年9月	鶴岡市政功勞表彰(産業経済功勞)

謹んでお悔やみ申し上げます

訃報

南高校同窓生・旧職員
令和5年6月1日～令和6年10月1日
北高校同窓生・旧職員
令和5年11月下旬～令和6年10月1日
(敬称略)

旧職員

三部 哲	南S57～H7、北S48～53	須藤 要三男	南S34～不明
齋藤 良	南H1～8、北S53～59	武田(薄衣)惠美子	南S38～47
五十嵐(田辺)文夫	南S41～H4、北H1		

◎北高校

佐藤(工藤)繁子	北S17
石川 安子	北S18
石山(鈴木)靖	北S18
羽根田 茂	北S18
向井(菅)淳子	北S20
渡部 たへ	北S20
熊澤(渡部)繁子	北S23
磯村(佐藤)富士子	北S24
大澤(佐藤)美枝	北S25
大泉(鋸持)澄江	北S26
斎藤 道子	北S26
村田 喜美子	北S26
矢嶋(佐々木)順子	北S26
青柳(阿部)久子	北S27
大石(佐藤)やゑ	北S27
尾形(斎藤)美子	北S27
工藤 ミサ子	北S27
斎藤(加藤)いく	北S27
佐藤(山川)ヒサコ	北S27
鈴木(大滝)律	北S28
菅原 泰子	北S28
長谷川(宮野)仁美	北S28
遠藤(諏訪部)ヨシ子	北S29
鈴木(小池)久美子	北S29
花澤(富樫)緑	北S29
久留(川村)喜久子	北S30
高橋(成沢)正子	北S31
鈴木(後藤)幸子	北S32
小林 秀子	北S33
伊藤 智恵	北S34
木村(菅原)淑江	北S34
佐藤(富樫)美恵子	北S38
中川(高橋)洋子	北S38
富樫(池田)冷子	北S41
岡村(清野)京子	北S43
佐藤(五十嵐)千代	北S44
本間(近藤)秀子	北S48

◎南高校(通:通信制・定:定時制・④:4学年)

佐竹 豊五郎	南S13
江部 悌三	南S16
佐藤 斎	南S16
中村 博之	南S18
須藤 要三男	南S19
河口 英昭(英覚)	南S20
阿部 千昭	南S20④
五十嵐(田辺)文夫	南S20④
池上 隆夫	南S20④
鈴木 和夫	南S20④
畠山 弘	南S20④
菱谷 岩雄	南S20④
平野 成士	南S20④
佐藤 宗矢	南S20定
石塚 志郎	南S21
五十嵐 長太郎	南S24
常世 寛	南S25
村井 康人	南S25
阿部 五郎	南S26
五十嵐(大沼)明	南S26
小野寺 昌一	南S26
佐藤 誠	南S26
中村 進	南S26定
池田 輝之	南S27
岩浪(成沢)薫	南S27
上野 貞之	南S27
太田 良一	南S27
奥山 幸朗	南S27
工藤(山本)英一	南S27
今野(若松)昭二	南S27
重原 祥	南S27
佐藤 富美	南S27定
田村(大沼)和子	南S27定
秋野 哲雄	南S28
伊藤 司郎	南S28
加藤(富樫)恒男	南S28
後藤 晃	南S28
小松 博	南S28
斎藤 正光	南S28
笹原(石黒)節子	南S28
竹内 和夫	南S28

真嶋 経一郎	南S28
巖見 文男	南S28定
小林 みわゑ	南S28定
池田 恭平	南S29
大江 誠一	南S29
荻原 毅	南S29
前田 洋憲	南S29
齋藤 恭子	南S29
佐藤 治子	南S29
菅原 敏記	南S29
青柳 孝治	南S30
佐藤 正二	南S30
高橋 清治	南S30
船岡 弘治	南S30
北村 行夫	南S30定
石塚 知久美	南S31
加藤(莊司)節子	南S31
坂田 弘吉	南S31
佐藤 修三	南S31
佐藤 尚雄	南S31
佐藤 仁	南S31
新穂 禎三	南S31
諏訪 浩	南S31
高橋 平松	南S31
成田 浄司	南S31
真島 正博	南S31
森谷 栄太郎	南S31
五十嵐 金吾	南S31定
小野田 安生	南S31定
高橋 慶一	南S31定
足達 隆	南S32
板垣 誠一郎	南S32
川上 繁勝	南S32
小林 繁雄	南S32
佐藤 捷治	南S32
吉住 誠	南S32
上野 靖	南S32定
富樫(菅原)貞治	南S32定
萬年 宥二	南S32定
佐々木 功	南S33
高橋 栄祐	南S33
富樫 隆	南S33

佐藤 芳	南S34
蓮池 光正	南S34
青沢 郁子	南S35
池田 攻	南S35
上野 益男	南S35
尾上 武正	南S35
加藤(木村)功	南S35
丸山 泰毅	南S35
後藤(小林)とし子	南S35定
佐藤 興介	南S35定
板垣 和男	南S36
佐藤 昌直	南S36定
佐藤 昌一	南S37
佐藤 裕三	南S37
武田(薄衣)惠美子	南S37
山口 耕史	南S37
井上 晃	南S40
中村 紘	南S40
丸山(大滝)澄夫	南S42
佐藤 増二	南S43
成沢 忠充	南S43定
井上 明	南S44
長谷川 研一	南S44
相馬 俊一	南S44通
佐藤 道彦	南S45
今野(齋藤)典子	南S46
齊藤 修	南S46
齊藤 豊一	南S46
渡部 七重	南S47
西田 幸市	南S47定
小川 茂広	南S49
土田 恭弘	南S49
佐藤 悦	南S50通
中西(石橋)庸	南S51
佐藤 正光	南S54
富樫 孝子	南S56
遠藤 栄一	南S57
山本(高橋)典子	南S57
黒坂 富紀	南H1通
上野 光彦	南H7
小坂 アサ	南H13通
遠藤 美羽	南R2

令和5年度 鶴翔同窓会 最終報告

事業報告

理事会	5/9 第1回
役員会	4/20 第1回、7/18 第2回(合同)、8/24 第3回、12/19 第4回、3/19 第5回
同窓会だより「第64号」	7/1 発行 企画編集会議 10回
創立135周年記念行事(7月5日)	13:00~記念式典・記念講演: 荘銀タクト 渡部 智氏(S58卒・90回) 役者(ワタベギユウ) 16:45~総会・記念祝賀会: グランドエル・サン
創立記念行事実行委員会	5/22 第2回、6/28 第3回
鶴翔同窓会閉会式実行委員会	7/19 第1回、8/23 第2回、12/14 第3回
鶴翔同窓会 閉会式(令和6年2月11日)	14:00~式典・思い出を語る会: グランドエル・サン
同窓会だより「閉会記念号」	R6.2/11 発行 カラー 60ページ
鶴岡南高等学校 入学式	R5.4/7 入学生 184名
鶴岡南高等学校 卒業式	R6.3/1 卒業生 196名
鶴岡南高等学校 閉校式	R5.11/29 荘銀タクト鶴岡

一般会計

令和5年4月1日~令和6年3月31日 (単位: 円)

収入の部		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1	会 費	4,550,000	4,315,000	▲ 235,000	
	① 入 会 金	950,000	980,000	30,000	@5,000円×196名=980,000円
	② 維 持 会 費	3,600,000	3,335,000	▲ 265,000	1,099件(うちうちょ472,コンビニ=582,クレジット45)(前年1,230件)
2	寄 付 金	1,100,000	1,217,200	117,200	226件(前年222件)
3	繰 越 金	3,412,248	3,412,248	0	前年度からの繰越金
4	雑 収 入	117,752	198,357	80,605	エアコンPTA使用料175,940円、預金利息
5	如松同窓会より預り金	0	5,456,000	5,456,000	致道館高校同窓会へ設立金5,000,000円、入会金456,000円
	合 計	9,180,000	14,598,805	5,418,805	
支出の部		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1	運 営 費	2,230,000	2,242,391	12,391	
	① 会 議 費	10,000	0	▲ 10,000	役員会、理事会、総会
	② 需 用 費	140,000	149,992	9,992	はがき、切手、事務用品、インターネット接続 他
	③ 負 担 金	740,000	740,000	0	PTA書記給与負担金
	④ 旅 費	400,000	500,639	100,639	支部総会出席者旅費等
	⑤ 支 払 手 数 料	310,000	250,388	▲ 59,612	維持会費・寄付金振替手数料
	⑥ 鶴翔会館エアコン費	130,000	192,572	62,572	ガス支払料金、R7予定のメンテナンス
	⑦ 雑 費	500,000	408,800	▲ 91,200	事務局員活動費、慶弔費、諸雑費
2	事 業 費	4,083,000	4,398,315	315,315	
	① 同窓会報印刷発行費	2,950,000	3,136,892	186,892	印刷費・封筒・発送費等
	② 創 立 記 念 事 業 費	600,000	787,133	187,133	案内印刷、看板、講演料、実行委員会会議費 他
	③ ホームページ運営事業費	183,000	183,150	150	ホームページ運営費
	④ 支 部 総 会 補 助 費	180,000	120,000	▲ 60,000	東京・仙台・新潟・山形・関西鶴翔、羽黒支部
	⑤ 卒 業 記 念 品	170,000	171,140	1,140	卒業証書ファイル(199冊)
	⑥ 積立金会計繰出金	0	0	0	
	⑦ 学校支援特別会計繰出金	0	0	0	
3	予 備 費	2,867,000	0	▲ 2,867,000	
	合 計	9,180,000	6,640,706	▲ 2,539,294	

〔収入〕14,598,805円 - 〔支出〕6,640,706円 = 7,958,099円(次年度への繰越) (内5,456,000円は如松同窓会より預り金)

事業積立金会計

(単位: 円)

収入の部		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1	一般会計繰入金	0	0	0	
2	手 数 料	0	0	0	「会員名簿」発刊時の還元金
3	繰 越 金	10,315,179	10,315,179	0	前年度からの繰越金
4	雑 収 入	121	75	▲ 46	預金利子
	合 計	10,315,300	10,315,254	▲ 46	
支出の部		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1	一般会計繰出金	0	0	0	一般会計へ
2	創 立 記 念 事 業 費	5,500,000	8,387,246	2,887,246	閉校式647,643、閉会式991,586、閉校記念誌6,748,017(当初40頁が好評につき60頁(総重量2.5t)に増、印刷・郵送費が大幅に増額)
3	予 備 費	4,815,300	0	▲ 4,815,300	
	合 計	10,315,300	8,387,246	▲ 1,928,054	

〔収入〕10,315,254円 - 〔支出〕8,387,246円 = 1,928,008円(次年度への繰越)

学校支援特別会計

(単位: 円)

収入の部		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1	一般会計繰入金	0	0	0	一般会計より
2	寄 託 金	200,000	406,158	206,158	卒業生、同期会(S58・90回、S59・91回、S60・92回、H15・110回)
3	繰 越 金	5,622,520	5,622,520	0	前年度からの繰越金
4	雑 収 入	80	47	▲ 33	預金利子等
	合 計	5,822,600	6,028,725	206,125	
支出の部		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1	激 励 活 動 費	150,000	127,554	▲ 22,446	新会員の受験対策支援(仙台・東京方面)
2	整 備 活 動 費	100,000	0	▲ 100,000	設備・物品等ハード面の整備
3	在 校 生 活 動 奨 励 費	300,000	383,940	83,940	在校生の支援、SSH通信(47~50号)
4	予 備 費	5,272,600	0	▲ 5,272,600	
	合 計	5,822,600	511,494	▲ 5,311,106	

〔収入〕6,028,725円 - 〔支出〕511,494円 = 5,517,231円(次年度への繰越)

令和5年度 如松同窓会 最終報告

会務事業報告

令和5年4/7	鶴岡北高 入学式
〃	育英会給付金支給
12	前期育英会奨学金貸与(貸与生)
19	会計監査
25	第1回常任理事会
5/20	第2回常任理事会
〃	第1回理事会
28	東京支部総会
	石碑建立工事着工
6/1	育英会給付金支給
11	関西支部総会
7/3	第3回常任理事会
19	部活動後援会役員会
22	第4回常任理事会
〃	第2回理事会
8/1	育英会給付金支給
22	除幕式
25.26	鶴岡北高 学校祭
	20周年記念同期会(北49回生) *中止
9/2	定例総会(第一ホテル鶴岡)

10/2	育英会給付金支給
5	後期育英会奨学金貸与(貸与生)
10	第5回常任理事会
17	閉校式
12/1	育英会給付金支給
19	第6回常任理事会
20	如松同窓会会報最終号 第46号完成・発送
令和6年2/1	育英会給付金支給
27	第7回常任理事会
〃	第3回理事会
29	同窓会入会式(正副会長、事務員出席)
3/1	鶴岡北高第70回卒業式(正副会長出席)
〃	卒業を祝う会(会長出席)
10	同窓会閉会の集い
22	令和6・7年度育英会奨学金貸与(貸与生)
30	第8回常任理事会
随 時	正副会長談話 会報編集委員会 閉校・統合に係る打ち合わせ 育英会に係る打合せ

令和5年4月1日～令和6年3月31日

同窓会基本金会計

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
収 入		
1 繰 越 金	1,105,458	1,105,458
2 普 通 会 計 繰 入 金	0	0
3 株 式 配 当 金	0	353,369
4 雑 収 入	542	6
合 計	1,106,000	1,458,833
支 出		
1 予 備 費	336,000	613,521
2 普 通 会 計 繰 出 金	770,000	500,000
合 計	1,106,000	1,113,521

如松育英会基本金会計

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
収 入		
1 繰 越 金	71,969,580	71,969,580
2 寄 付 金	0	30,000
3 普 通 会 計 繰 入 金	0	0
4 運 用 資 金 会 計 繰 入 金	1,000,000	0
5 雑 収 入	420	3,990
合 計	72,970,000	72,003,570
支 出		
1 運 用 資 金 会 計 繰 出 金	0	0
2 予 備 費	72,970,000	*5,001,100
合 計	72,970,000	5,001,100

*致道館高等学校同窓会へ活動費として、5,000,000円(手数料1,100円)支出

同窓会普通会計

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
収 入		
1 繰 越 金	199,175	199,175
2 入 会 金	404,000	404,000
3 維 持 会 費	2,000,000	179,012
4 雑 収 入	825	23,521
5 基 本 金 会 計 繰 入 金	770,000	500,000
合 計	3,374,000	1,305,708
支 出		
1 運 営 費	945,000	949,254
2 事 業 費	2,289,000	95,863
3 諸 費	140,000	247,035
4 基 本 金 会 計 繰 出 金	0	0
5 育 英 会 会 計 繰 出 金	0	0
6 予 備 費	0	0
合 計	3,374,000	1,292,152

*2 事業費の会報発行費は閉校事業経費として支出
*令和6年度入会金 456,000円は、致道館高等学校同窓会会計へ繰り入れ

如松育英会運用資金会計

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
収 入		
1 繰 越 金	4,047,798	4,047,798
2 売 却 益 ・ 利 金	0	0
3 返 還 金	4,868,000	7,158,000
4 雑 収 入	202	686
5 育 英 会 基 本 金 会 計 繰 入 金	0	0
合 計	8,916,000	11,206,484
支 出		
1 奨 学 金	1,500,000	3,660,000
① 貸 与 金	1,440,000	3,600,000
② 給 付 金	60,000	60,000
2 事 務 費	40,000	22,028
3 事 務 手 当	120,000	120,000
4 育 英 会 基 本 金 会 計 繰 出 金	1,000,000	0
5 予 備 費	6,256,000	3,469,804
合 計	8,916,000	7,271,832

*1 奨学金の貸与金は令和6・7年度分も支出
*5 予備費から閉校事業経費を支出

如松育英会笹原基金会計

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額
収 入		
1 繰 越 金	18,343,108	18,343,108
2 返 還 金	1,872,000	1,765,000
3 雑 収 入	892	322
合 計	20,216,000	20,108,430
支 出		
1 貸 与 奨 学 金	1,080,000	2,160,000
2 事 務 費	30,000	15,468
3 事 務 手 当	60,000	60,000
4 予 備 費	19,046,000	0
合 計	20,216,000	2,235,468

*1 貸与奨学金は令和6・7年度分も貸与金を支出

寄付者ご芳名

○令和5年度育英基金へ(令和5年4月1日～令和6年3月31日)
如松同窓会 東京支部 様 30,000円
ご芳志ありがとうございました

<閉校事業会計報告>

(単位:円)

1 石碑建立費(寄付金除く支払い分)	119,130
2 閉校式	579,800
3 学校史負担金	570,320
4 会報発行費	1,996,013
*印刷代	596,860
*用紙代等	316,131
*郵送代	1,083,022
5 閉会の集い	117,511
合 計	3,382,774

*同窓会普通会計・基本金会計、如松育英会運用資金会計・基本金会計、如松育英会笹原基金会計の残金は、令和6年4月に設立した「一般社団法人如松育英会」会計へ繰り入れます。
*令和6年度から致道館高等学校卒業生を対象とした給付型奨学金の募集を行います。

令和6年度 致道館高等学校同窓会 事業計画

理事会	5/10 第1回
役員会	4/16 第1回、10/29 第2回、R7.3/18 第3回
総会・親睦会 (毎年7月第一土曜日)	7/6 第1回: グランドエル・サン
同窓会報「創刊号」	11/1 発行 31,500部
令和6年度事業 実行委員会 (親睦会部会・会報部会)	設立準備会: R5.11/13、12/13 実行委員会: 2/19 第1回、4/17 第2回、6/19 第3回 親睦会部会・会報部会は随時開催
令和6・7年度 実行委員会 (引継ぎ会)	11月頃
致道館高等学校 入学式	R6.4/10 入学生 261名
致道館高等学校 卒業式	R7.3/1

令和6年度致道館高校同窓会一般会計予算

令和6年4月2日～令和7年3月31日 (単位: 円)

取入の部	6年度予算	備考
鶴翔同窓会より繰越金	4,430,107	一般会計7,958,099 - 5,456,000 = 2,502,099円、積立金会計1,928,008円
如松同窓会より設立金	5,456,000	新同窓会設立金5,000,000円、令和5年度入会金456,000円 (114名)
入会金	1,500,000	@5,000円×300名 (R7.3卒業生)
維持会費	4,500,000	1,500件 (3,000円) 前年 (1100件×3,000 + 1000件×2,000 = 5,300,000円)
寄付金	1,500,000	300件 + 同期会残金寄付
会報広告料	300,000	15件20,000円 (実行委員同期企業10件、毎年固定企業5件)
雑収入	213,893	エアコンPTA使用料、会員名簿売却代他
合計	17,900,000	
支出の部	6年度予算	備考
会議費	150,000	役員会・事務局会
需用費	200,000	通信費用、消耗品等
親睦会事業費	350,000	総会告知100千円、各期補助40千円、持出し金210千円
会報印刷発行費	5,720,000	31,500部×50円 + 30,500部×136円
各地同窓会渉外費	800,000	旅費540千円、会費130千円、日当130千円 (26日×5千円/日)
卒業記念品	300,000	卒業証書ファイル310冊×970円
事務負担金	900,000	PTA書記給与負担金 (負担割合50%)
ホームページ運営費	190,000	
鶴翔会館空調費	190,000	ガス支払料金、R7予定のメンテナンス
支払手数料	500,000	維持会費・寄付金振替手数料
雑費	500,000	新聞広告70千円、他430千円 (ホームページ新規・PC更新・引越し費用含む)
予備費	8,100,000	次年度繰越予定額
合計	17,900,000	

令和6年度学校支援特別会計予算

令和6年4月5日～令和7年3月31日 (単位: 円)

取入の部	6年度予算	備考
鶴翔同窓会より繰越金	5,517,231	
寄託金	182,700	卒業生
雑収入	69	預金利息等
合計	5,700,000	
支出の部	6年度予算	備考
激励活動費	150,000	新会員の受験対策支援 (仙台・東京・京都方面)
整備活動費	100,000	設備、物品等
在校生助成費	300,000	在校生の支援、活躍した部・個人への助成・祝金
予備費	5,150,000	次年度繰越予定額
合計	5,700,000	

致道館高等学校同窓会 公式 LINE

母校や同窓会の最新情報を配信します。
友だち追加をお願いします。



友だち追加 +





イタリアンフレンチ レコルト
難波英城 (南H9)

- 営業時間 ランチ : 11:30~14:30
ディナー : 18:00~21:00
- 定休日 毎週火曜日

TEL 090-1391-1860 〒997-0047 山形県鶴岡市大塚町 21-2

株式会社 浅賀建設

代表取締役社長
浅賀 大輝 (南H13)

山形県鶴岡市大平田字宮田 7-1 TEL:0235-22-6219 FAX:0235-22-6242



山形県立致道館高等学校同窓会

ホームページ
<https://www.chidokan.jp/>



甘しもので お心あたたまる

いづみや

齋藤 範子 (北S61) 鶴岡市川尻字上の前56-2
TEL:0235-64-2535 FAX:0235-64-2168




令和6年度 役員・事務局名簿

会長	齋藤正志 (南S44)
副会長	田中芳昭 (南S46)
〃	滝川義朗 (南S51)
〃	渋谷せつ (北S51)
〃	坂尾 聡 (南S55)
〃	渡會俊仁 (南S57)
〃	兼子由香 (北S58)
〃	木戸 祐 (北S58)
副会長・校長	遠田達浩
会計監事	堀 真一 (南S53)
〃	太田貴士 (南H3)
事務局長	佐藤 守 (南S51)
事務局次長	田澤妙子 (北S46)
事務局員	菅原ゆり (南S51)
〃	長谷川夕香 (北S58)
〃	北風秀明 (南H2)
〃	田中加奈子 (北H6)
〃	本間康弘 (南H9)
〃	本間みや子

令和6年度 第1回 致道館高等学校同窓会 実行委員会

実行委員長	五十嵐孝義 (南S60)
副実行委員長	佐藤美穂 (北S60)
〃	若生真人 (南H7)
〃	高橋夏子 (北H7)

〈親睦部会〉

部会長	大川岳二 (南S60)
	五十嵐孝義 (南S60)
	永壽祥司 (南S60)
	匹田真由美 (北S60)
	佐藤美穂 (北S60)
	齋藤由美 (北S60)
	高橋修也 (南S61)
	松田香織 (北S61)
	五十嵐和美 (北S61)
	工藤順也 (南H7)
	高橋夏子 (北H7)
	池田千賀 (北H7)

〈会報部会〉

部会長	三浦裕美 (南S60)
	竹田陽子 (北S60)
	若生真人 (南H7)
	佐藤清輔 (南H7)
	上林千夏 (南H7)
	松田弘子 (北H7)
	中村優美 (北H7)



Information ~同窓会事務局より~

◇「同窓会報」は『繋ぐ』をテーマに編集し、将来同窓会員となる在校生が会報の一部を企画・作成しました。(今後も継続する予定です)

「表紙」…… 構成：美術部 題字：書道部 写真：報道部
「生徒のページ」… 報道部

◇「鶴翔・如松同窓生の表記」が変わります。

旧鶴翔如松同窓生については従来の「○回」は明記せず、下記の例のような表記に変わります。

(例) 鶴岡南高等学校 昭和35年3月卒業 ⇒ 南S35 氏 名
鶴岡北高等学校 平成27年3月卒業 ⇒ 北H27 氏 名
致道館高等学校 令和7年3月卒業 ⇒ R7・1回 氏 名

◇維持会費の納入方法は下記のいずれかよりお選びください。

- ①事務局に持参 ②クレジット ③スマホアプリ
④振り込み ⇒ 郵便局またはコンビニ

注) 郵便局は維持会費・ご寄付も受付となります。

注) コンビニは3口(3,000円)のみ受付となります。

◇「同窓会報」・「総会資料」はHPに掲載しています。

◇住所・氏名等、変更された場合は同窓会事務局にお知らせください。(お電話またはHP)

◆「同窓会報第2号」は、維持会費・ご寄付を頂いた方(過年度を含む)にお届けします。

未来の会員のため、
なにとぞ維持会費の納入に
ご協力をお願い申し上げます。



旧如松同窓会所蔵品の寄贈先について

TOPIC!

雛人形一式は丙申堂に寄贈、同窓生より寄贈された絵画4点は鶴岡市(アートフォーラムに保管)に寄贈いたしました。

伊藤喜久井 作 絵画「女達(女たち)」

(制作年 昭和59年)

伊藤喜久井 作 絵画「だるま市」

(制作年 昭和60年)

尾形美和 作 絵画「composition」

(制作年 不詳)

尾形美和 作 絵画「ヴェネツィアの調べ」

(制作年 平成4年以前)

榎阿徳鶴菅池南高脇大大大相石小佐佐兼奥伊阿酒太南土田谷小五宮丸渡石齋澤本尾渡中川成小山坂佐佐森富小坂南高平富百土
 本部田見原田58坂山塚竹泉馬川松藤藤木子泉藤部井田57岐村池嵐崎山辺川56藤田間形部西島田鷹田尾藤藤内榎松垣55取賀榎瀬田
 隆恵有美秀由信明紀和禎洋勝春慎久聡哲和恵宏陽一るみ正圭主由陽亮浩祐英正幸昌千稲道克浩
 克子満紀記喜司拓子恵弘功浩牧介司人郎人子久滋弘肇佳子忠子哲義敦子修子美郎子徹子子信子聡洋樹美亮樹之昭子明浩和

難辻笹榎伊安阿保日洪南齋脇白中村上山斎佐工岡阿菅齋薄石南船木本本杉松佐佐金鎌奥安阿三西杉佐南尾谷大大相須須砂砂佐原花
 波原本藤野部坂向谷61藤旗島田野口藤藤藤部曾原藤衣川60見村間間山木藤藤井田山野部井川本藤59形家平場沢藤田田田野田光
 正奈雅智吉祐裕浩尚久幸裕英秀恵智一一美博勝千一純正佐わ昌玲智淳めぐひと進昌有和こ哲泰修裕純玲
 敦人津幸誠治子彦利洋一美健子志弥一子二生美也浩志帆敦重義子之一和美か弥子敦穂二み子み也彦美健隆え也寛宏一子治子

菅南北北森山佐佐高荒阿宮日野大伊秋南村蓮輪北保村小笹佐五横南本大大佐佐五遠遠伊山金南毛本本藤大大村秋佐吉井佐後南鈴野
 原3風風本藤々越沢部村向田瀧藤山2山池木田科井川原藤嵐山1間泉川藤藤藤井田山野部井川本藤59形家平場沢藤田田田野田光
 直秀加裕節宏律正修大精敬昌尚泰聡弘智浩一仁ゆきはる由瑞晶勝あ由賢美信千勝友英吉啓
 子明奈之子明子英敏一恵吾頭一史志聡道勉子朗幸幸泰一憲桂亮晴子洋か樹子穂敦子彦み縁治鈴一香秋堅聡美美晋実也介

本粕田中三佐半大大上南野片魚野亀南梅相石後五佐伊南富富白梅池松阿今五南難進小佐皆竹佐遠伊五南西佐後五藤相佐南林清小佐古
 間谷中目浦藤澤森野9尻山住尻石8津馬川藤藤藤藤7榎榎幡津田浦部野嵐6波藤林藤川田藤藤藤嵐5山藤藤嵐野馬藤4野野藤野
 康宜香哲美琢久真博高美紀善か英美真美秀真友直邦尚和裕真あ未智知英曉晃由雄郁公真た栄英伸
 弘昭織平子磨之子行行香雄之な幸穂敦琴貴三温人貴也明恭宏広之治優ね子一治洋成子子里一亘浩夫健忍美美え一彦典

橋土南佐後南宗佐伊佐小上南佐黒土南板志南東池森森上佐森滝後門鏡南成佐五伊土南鶴庄南石南南難真廣菊南矢大佐荒工工奥鹿黒南
 爪田20藤藤19岡藤藤藤松野18木澤田17垣田16林田野藤口藤脇15澤藤嵐嵐嵐田14卷司13橋12波島原地11口滝藤木藤藤戸根10
 希由優淳寛龍弘瑞一佑淳史真暁康千洋俊万由祥史雄隆雄香啓勝遼洋佑教理康夕慶慎直朋
 美子人も子勲太穂磨基一門子歩朗研花輔輔子久子玄健絃一健三大甫子一己大史介晶行豊史旬博佳和郎子子

富南高鈴安濱南草遠南吉小南毛中遠薄南渡丸小南大五南本吉薄南本工五阿佐南樋大菅南片富阿鎌南鈴佐南本本松南鎌佐南草黒丸
 樫5橋木野崎4島藤2田松31呂崎藤衣30部山松29和嵐28間田衣27間藤嵐嵐部26口和25桐榎部田24木藤23間田浦22田藤21鳥澤山
 永璃一彩愛怜千文日朱琴和文直陽一豪望健貴理優壯京琢邦奈和由直早貢宇悟芽秀
 理奈花平峰華應奈香里里音斗慧香紀郎翔眺大里諒寛明文佳将弥亮介宥周磨裕月紀理樹季輝樹志衣紀



ご寄付、維持会費の納入ありがとうございました。
 スマホ・パソコン・各アプリよりどこでも維持会費の
 納入ができます。

致道館高等学校同窓会

卒年に 友の名みつけ なつかむ
 ここは同期の 通信欄

ほんま歯科クリニック
 院長 歯学博士 本間 済
 補綴専門医
 副院長 歯科医師 本間 千鶴 (南H9 旧姓近藤)
 ☎0235-64-0348
 〒997-0161 鶴岡市羽黒町押口字川端42-39

フィデアカード株式会社
 鶴岡市本町一丁目3-43 Tel.0235-22-3040

湯の浜カントリークラブ
 理事長 上野雅史 (南S51)
 庄内ゴルフ株式会社
 代表取締役総支配人
 泉谷 伸 (南S51)
 ◀名物11番ホール。日本海に向かって豪快な打ち下ろし。
 鶴岡市下川字龍花崎 20-10 TEL: 0235-75-2044 FAX: 0235-75-3012 https://yunohama-cc.jp

山形不動産サービス株式会社
 代表取締役 佐藤 健 (南S55)
 庄内倉庫事業本部 鶴岡市宝田2-10-20
 普通倉庫 TEL 0235-22-6431
 文書倉庫 TEL 0235-35-0255

石臼で練り上げる、真心込めた手作り蒲鉾。
滝川義朗 (南S51)
 (有)竜泉・滝川 **滝川蒲鉾**
 〒997-0034 鶴岡市本町1-8-27
 TEL 0235-22-0281

リリーほと商事株式会社
 鶴岡市本町二丁目2番8号
 0235(24)3111




致道館高等学校同窓会
第1回総会・親睦会
 令和6年7月6日(土) 総会 15:00
 親睦会 16:00
 グランドエル・サン



編集後記

致道館高等学校同窓会報第一号
 いかがでしたでしょうか？会報部
 会のメンバーも未経験者が多かつ
 たのですが、いろいろ相談しなが
 ら作成しました。

このたびの同窓会報のテーマは
 「繋ぐ」です。多くの諸先輩方が繋
 いできた鶴翔同窓会と如松同窓会
 の歴史と伝統を致道館高等学校同
 窓会へ、会員となる致道館高等学
 校の生徒たちへ。この「繋ぐ」こと
 で、同窓会の新たな歴史と伝統が連綿
 と続くことを期待しております。

「繋ぐ」第一歩として、まずは
 致道館高等学校を知っていただく
 こと。そして、新しい学校で活躍
 している生徒さんたちと連携して
 作り上げることとし、タイトル作
 成には書道部・美術部、表紙の写
 真や生徒のインタビューは報道部
 にご協力いただきました。この連
 携は今後も繋いでいく予定です。

また、同窓会の絆を「繋ぐ」とい
 うことでは、新たに親睦会を設
 けて第一回総会・懇親会を開催し
 ました。多くの方々から参加いた
 だき、上記の写真のとおり、懐か
 しく、そして共に語り合い、楽し
 い時間を過ごすことができました。
 最後に、第一号発刊にあたり、
 多くの皆さまから協力いただき
 ましたことに心から感謝申し上げ
 ます。第二号へ繋がります。

三浦裕美

会報部会

- 部会長 美子 人輔 夏子 美り 弘子
- 三浦 裕陽 真清 千弘 優ゆ 康奈
- 若生 藤林 田村 原間 菅本
- 佐上 松中 菅本 田中